

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

9月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告数は53件（前月比3.1、前年同月比2.5）でした。前月より増加し、前年よりもやや多いですが低い水準です。県全体の定点あたり報告数は0.7で、宇城（5.8）でやや多く検出されました。

小児科定点

（全体傾向）

報告数は3,031件（前月比0.89、前年同月比0.79）で、前月、前年同月に比べてやや少なめです。インフルエンザはやや増加しましたが、手足口病をはじめ多くの疾患が前月より減少しました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数は666件（前月比1.2、前年同月比0.5）でした。報告数は前年同様に7、8月で急速に増加し、9月が最多になりました。しかし9月の報告数は前年同月の半数程度にとどまっています。県全体の定点あたり報告数は13.3で、有明（28.4）、八代（25.0）から多く検出されました。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数は55件（前月比1.0、前年同月比0.3）で、7、8月と同様の低水準でした。1歳児、次いで5歳児からの検出が多かったようです。県全体の定点あたり報告数は1.1で、菊池（3.8）から多く報告されました。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数は219件（前月比0.9、前年同月比1.4）で、例年と大きく変わらない頻度で検出されました。年齢層では4、5歳をピークに、3～6歳で全体の約半数を占めました（119/219）。県全体の定点あたり報告数は4.4で、八代（6.5）、菊池（6.2）の検出頻度が高くなっています。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数は1,052件（前月比1.1、前年同月比1.2）でした。6月以降減少が続きましたが、例年同様に秋～冬季の報告数増加が予想されます。年齢層では1、2歳が最多で、幅広い年齢に認められました。県全体の定点あたり報告数は21.0で、菊池（50.8）、有明（37.0）から多く報告されました。
5. 水痘 : 報告数は28件（前月比0.8、前年同月比0.6）で、例年に比べ低水準での検出が続いています。県全体の定点あたり報告数は0.6で、人吉（2.3）から多く検出されました。
6. 手足口病 : 報告数は228件（前月比0.4、前年同月比0.5）で、今年の流行は終息しつつあるようです。年齢別では1歳で最も多く報告されました。県全体の定点あたり報告数は4.6で、八代（13.8）からの報告が多くなっています。
7. 伝染性紅斑 : 報告数は3件（前月比0.6、前年同月比0.4）で、低い水準が続いています。
8. 突発性発疹 : 報告数は114件（前月比0.8、前年同月比1.1）で、6月以降減少が続いています。県全体の定点あたり報告数は2.3で、山鹿（4.0）、水俣（4.0）から比較的多く報告されました。
9. ヘルパンギーナ : 報告数は392件（前月比0.8、前年同月比1.2）でした。今年は例年より流行のピークが1ヶ月遅くて8月にあり、9月から減少に転じています。県全体の定点あたり報告数は7.8で、報告が多いのは菊池（18.2）、天草（15.3）でした。年齢層では1歳が最多でした（152/392）。

10. 流行性耳下腺炎 : 報告数は13件(前月比0.5、前年比0.2)で、例年に比べて報告数の少ない状況が続いています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告数 30~39 歳台に 2 件(前月比一、前年同月一)熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 102 件(前月比 0.9、前年同月 1.3)とほぼ横ばいです。熊本 78 件、菊池 6 件、有明 18 件と先月同様、有明地区の多発が継続しています。20~49 歳にピークがありますが、幼児層、高齢層にも多く発症しています。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数47件(前月比0.8、前年比 0.7)で、前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性23件、女性24件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は20~39歳に多く見られ、女性は15~39歳に見られます。地域別は、熊本が37件、次いで御船、八代各4件、有明2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数17件(前月比0.5、前年比 1.1)で前月比は減少し、前年比は増加しています。男女別は、男性10件、女性7件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は20~64歳に見られ、女性は15~64歳に見られます。地域別は、熊本10件、次いで菊池4件、宇城2件、八代1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数12件(前月比1.2、前年比1.2)で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性10件、女性2件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は20~59歳に見られ、女性は20~29歳に見られます。地域別は熊本9件、次いで菊池、八代、宇城各1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数10件(前月比0.6、前年比 0.8)で、前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性6件、女性4件で男性に多く見られます。年齢別は、男性は25~49歳に見られ、女性は15~29歳に見られます。地域別は、全例が熊本でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数は14件(前月比 : 0.9、前年同月比 : 0.6、男女比 : 10/4)で引き続き減少傾向にあります。熊本地区(6)、有明地区(3)、菊池地区(2)、山鹿・阿蘇・人吉地区(1)と広範囲に認めます。全地区70歳以上(14)に集中して検出されました。
▼例年よりやや少なめの報告数で推移しています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :
報告数は0件(前月比 : -、前年同月比 : -、男女比 : -/-)でH30年7月(8)をピークに減少経過に転じています。
▼例年に比べ急激な減少経過に転じています。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 :

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-/-）でした。

▼引き続きH30年4月(1)以降、報告はありません。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数は1件（前月比：-、前年同月比：-）でした。熊本地区(1)で70歳以上(1)でした。
▼例年並みの報告数で推移しています。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数は1件（前月比：0.2、前年同月比：0.3）で減少に転じています。熊本地区(1)で25-29歳(1)でした。
▼引き続き例年に比べて少ない報告数で推移しています。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は2件（前月比：0.7、前年同月比：0.2）で横向きに推移しています。熊本地区(2)からの報告で5-9歳(1)、10-14歳(1)でした。
▼引き続き例年に比べて少ない報告数で横向きに推移しています。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で引き続き、報告はありませんでした。
▼H28年の発生以後、報告はありません。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。
▼例年に比べ低いH30年4月(13)のピーク以後減少に転じ、少ない報告数で推移しています。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	20件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	3件
4類感染症	： レジオネラ症	2件
5類感染症	： アメーバ赤痢	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	急性弛緩性麻痺	1件
	後天性免疫不全症候群	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
	梅毒	4件
	百日咳	2件
	風しん	2件